ヴェルデ上賀茂

「利用者の思いを大切に・地域と共に歩む施設を目指して」

地域密着型小規模特別養護老人ホーム　ヴェルデ上賀茂
施設長　吉多　克夫

＜施設概要＞

施設名	地域密着型小規模特別養護老人ホーム ヴェルデ上賀茂
施設長	吉多　克夫
管理者	吉多　克夫
所在地	〒603－8033 京都市北区上賀茂馬ノ目町１８番地
電話	０７５－７１２－００３０
ＦＡＸ	０７５－７１２－０３５０
事業内容	地域密着型介護老人福祉施設 ２９名（３ユニット）

「ヴェルデ上賀茂」は、今年で創立３０年を迎えました社会福祉法人　柊野福祉会が昨年１２月に開設いたしました地域密着型小規模特別養護老人ホームです。施設の直ぐ近くを賀茂川が流れ、世界遺産の「上賀茂神社」にも近く、大変自然環境に恵まれています。中庭にウッドデッキがあり、周辺には季節の花々やミニ畑もあって、天気の良い日には外に出て花を眺めたり、散歩をして楽しい時間を過ごしていただいています。施設名の「ヴェルデ」はイタリア語で「緑」の意味があり、そういった環境から「ヴェルデ上賀茂」と命名しました。

居室は全室個室で洗面台が各居室に設置されています。自宅で使い慣れた家具や身の回りの品を持ち込み、「その人らしい」空間作りをしていただくことができます。施設は３階建てで各フロア毎にキッチンを設けています。リビングを中心に居室が配置されているため、行き来しやすく、馴染みの方々との交流もしやすくなっています。ご家庭に近い生活を送っていただくために、お一人おひとりの生活習慣や個性等を尊重しながら生活支援を行い、生活リハビリや余暇等を通じて、生きがいを持って過ごしていけるよう支援を行っています。

また、地域の各種行事に積極的に参加して交流を深めたり、京都の伝統行事やお祭の見物外出などを企画して季節の移ろいを感じて頂き、生活にメリハリを感じて頂けるよう努めております。皆様の更なるご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会
〒600-8127　京都市下京区河原町五条下る梅湊町 83-1
ひと・まち交流館京都４階
TEL(075)354-8743・FAX(075)343-6270
発行人　会　長　羽賀　進
編集人　総務委員会　石田昌男

「林住期」への憧れ

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会
会　長　羽賀　進
（静原寮）

まだ若い頃に「**林住期**」という言葉に出会った。古代のインドの思想で、老人になったら森に棲んで思索にふける時節を迎える。すなわち「**森の哲人**」になるのだと記憶していて、一種の憧れを抱いていた。私自身も還暦を過ぎたが、同年の友人らはすでに退職し、田舎に帰った者や、親の介護で故郷と街を往復している者など、この年代に特有の事情にそれぞれが直面している。私たちは、いつかは仕事を離れ、それまでとは全く違った残りの人生を歩まなければならないのであるが、長寿国ニッポンは、多くの人々にこの「**林住期**」をどう過ごすのかという大きなテーマを投げかけている。

いま、「**林住期**」の戸羽口に立ってみて、改めて「**林住期**」の意味を確かめてみる。「**学生期**」「**家住期**」を過ぎ、50 ～ 75 歳を「**林住期**」と呼び、「**仕事を離れ、真の生きがいを探す**」時期だという。自分が本当にやりたいことは何かを問い、チャレンジする、人生の黄金期だという。

これを絵に描いたように実践した男がいる。ご存じの伊能忠敬である。江戸後期の下総の商人で 50 歳頃に隠居し、江戸に出て 5 年間暦学天文を学び、日本全国の沿海部を徒歩で測量し、17 年かけて「**大日本沿海輿地全図**」を完成させた。江戸時代における「**隠居**」文化の偉大なる成果の一つと言えるだろう。

さすがに経済的な余裕がなければ成り立たない「**隠居**」文化ではあるが、この伝統を引き継ぐ現代の日本においては、さしずめ定年後の人生が「**隠居**」に相当するのだろうが、果たして人生の黄金期にふさわしい「**自己実現**」の時節となるだけの要件が満たされているだろうか。

老後の頼りである年金は年々目減りし、各種の保険料や負担金の上昇、消費税アップと物価上昇など一般庶民の「**隠居**」生活は決して楽ではなく、日々の暮らしに追われ「**自己実現**」どころの話しではない。それどころか年金受給開始年齢が引き上げられると、いわば死ぬまで働き続けなければならない。働き手を疎外しないような仕事であればまだしも、糊口をしのぐためだけにしたくもない仕事をするのはなんとも味気ない。経済的格差が拡がる日本社会において、多くの高齢者が孤独と貧困に喘ぎ、働き続けなければ生きていけない、そんな時代がやってくるのだろうか。

さて古代インドでは 75 歳以降を「**遊行期**」といい、自らの死について考え、死に場所を求めて彷徨い歩く人生最後のステージとなっている。日本の男性の「**健康寿命**」が 70 歳程度といわれているので、平均寿命 80 歳までの約 10 年間がこの「**遊行期**」にあたることになる。願わくば充実した「**林住期**」を経て「**遊行期**」を迎えたいと思うし、そして私たちの仕事は、多くの人々の「**林住期**」と「**遊行期**」をサポートする大事な仕事なのだと改めて肝に銘じたいと思うのである。

事務局だより

今回の事務局だよりでは、最近国においても社会福祉法人の地域における公益的活動の推進、義務化などが検討されているなかで、市老協としての最近の社会貢献活動への取り組みと事務局の現状などについて紹介します。

○社会貢献プロジェクト

市老協としての今後の社会貢献活動の在り方や方向性を検討するため、昨年度新たに社会貢献プロジェクトを設置しました。初年度は、２名体制で大阪の生活困窮者レスキュー事業をはじめ全国的な取り組み状況の調査研究を行い、今年度は組織を強化するためメンバーを公募して６名が新たに加わりました。今後は、地域のニーズを踏まえた社会貢献活動の在り方や市社協との具体的な連携方法などについて、学識経験者のアドバイスも得ながら検討を継続していく予定です。

○市社協との社会福祉施設の地域貢献、社会貢献の促進に関する協定締結

本年 10 月１日当協議会は、社会福祉法人京都市社会福祉協議会と「社会福祉施設の地域貢献・社会貢献の促進に関する協定」を締結しました。

この協定は、人にやさしく、災害に強い福祉コミュニティづくりのため､両協議会が包括的な連携のもと、それぞれの持つ人材や知識、情報などの資源を活用して相互に連携し、社会福祉施設の地域貢献・社会貢献を促進することを目的とするものです。

連携・協力事項は、**(1) 地域福祉活動の拠点提供の促進、(2) 地域福祉活動に対する専門的・技術的支援、(3) 生活課題を抱えた人への生活支援の促進**などとなっており、今後具体的な取り組みを行う場合には、その内容に応じて覚書を交わすこととなっています。

10 月 19 日には、ひと・まち交流館 京都で開催された「福祉ボランティア・社協フェスタ」の式典において、門川京都市長をはじめ多くの市社協関係者、関係団体の方々をはじめ、市老協関係者も出席したなかで、この協定を締結したことが披露されました。

その後の記念講演会では、京都市社会福祉施設連絡協議会の副会長でもある羽賀会長が協定締結を踏まえて「福祉施設の地域貢献と絆づくり」と題して講演させていただきました。

すでに取り組まれている居場所の提供事例として、会員施設の「ひろさわ」が地域交流スペースを活用し、民生児童委員協議会と連携して喫茶室サロンを展開していることや、「市原寮」が学区社協と連携して施設の事業を共催したり、施設職員が地域での介護技術や介護保険制度の学習会の講師となっていることなどが紹介され、今回の協定締結を契機として、今後、社会福祉施設と地域組織との連携が本格的に展開されることに大きな期待を寄せました。

また、社会福祉法人のこれまでの実績を振り返りながら今後のあるべき姿を明らかにするとともに、今年度当協議会が京都市からの委託により、具体的な社会貢献事業として新たに取り組む「京都市高齢者すまい・生活支援モデル事業」についても紹介し、今後の公益的な活動の重要性にも触れさせていただきました。

○京都市高齢者すまい・生活支援モデル事業

この事業は、今年度初めて国がモデル事業として予算化し、全国で横浜市、福岡市など８自治体が名乗りを上げ、高齢者に対する住宅確保と生活支援を行おうとするものです。

京都市では、それまでの京都市居住支援協議会での協議内容を踏まえ、保健福祉局の長寿福祉課と都市計画局のまち再生・創造推進室が連携して、当協議会に委託することにより事業を行うこととし、9 月市会に補正予算案を上程して承認され、11 月 4 日から事業が開始されています。

事業内容としては、原則として 65 歳以上の一人暮らしの見守り等の支援を必要とする方で、住み替えを希望している方を対象とし、こうした高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするため、また民間賃貸住宅への円滑な入居を促進させるため、低廉な「住まいの確保」と当協議会傘下の社会福祉法人による「見守り」などの生活支援サービスを提供するものです。

また、モデル事業期間は３年間であり、この間は国からの補助がありますが、その後は各法人が社会貢献事業として、独自財源により事業を継続することが前提となっています。

当協議会では、この生活支援サービスを提供する法人を６月に公募して６法人（京都福祉サービス協会、端山園、健光園、嵐山寮、清和園、京都老人福祉協会）を決定し、京都市との協議を重ねて事業開始に至っています。

今後は月に１回程度の実務担当者の集まりである作業部会を開催して、相談・利用実績などの情報交換や運営上の問題と課題の共有、意見交換などを行うことにより、適正かつ円滑な制度運営を図るとともに、モデル事業期間終了後の制度継続に資する取り組みを継続していきたいと考えており、将来的には全市でこうした事業が展開することができるように取り組みを強化していきたいと考えています。

○事務局員が増えました

今年の４月から、事務局員が１名増えました。この１名は初めて京都地域密着型サービス事業所協議会が雇用した事務局員で週４日勤務であり、不在時については他の事務局員がカバーしています。

また、６月末からは、京都市デイサービスセンター協議会の事務局も市社協から引き継ぎ、職員交流会や研修会を開催しており、これで４つの協議会の事務局を担当することになりました。

当然、業務量は増えていますが、それぞれの協議会の果たす役割りを意識しながら、事務局としてのレベルを上げられるように努力していきたいと思います。

それぞれの事務局員の主な担当業務は以下のとおりです。

氏　名	担当事務局等	主な担当業務・市老協担当委員会など
堀池　克彦	事務局長	総　括
中村　都	包括協	要介護認定調査・地域包括支援センター職員研修
内田　綾	市老協	庶務関係事務・ファーストステップ研修・総務委員会
大庭　尚子	市老協（地域密着協）	経理関係事務・第三者評価事業・施設ケア委員会・事業委員会
神林　優子	デイ協（地域密着協）	庶務関係事務・経営委員会
清水　智仁	市老協（包括協）	要介護認定調査・地域ケア委員会
土井　礼子	地域密着協	地域密着型サービス研修・フォローアップ研修

○スペースが２倍に！！

今年の４月から、事務局として長年の課題、悲願となっていました執務室スペースの拡大が実現し、約２倍となりました。事務局があるひと・まち交流館京都の指定管理者である京都市社会福祉協議会及び京都市保健福祉局長寿社会部をはじめ、ご支援いただいた皆様に心から感謝いたします。

隣にあったミーティングルームとの壁が取り払われて床面積は約２倍となり、やっと事務所らしく机を並べることができ、元のスペースは６人程度の会議ができるたいへん貴重な空間となりました。ひと・まち交流館に来られることがあれば、ぜひ４階の事務局をお訪ねください。お待ちしております。

輝いています！ハートメッセンジャー

介護の日記念フォーラムでは、実践発表者として登壇

平成２６年１１月１１日　介護の日記念フォーラムにおいて、第４期ハートメッセンジャー委嘱式が執り行われました。
第４期ハートメッセンジャーは、　１０３の会員施設から推薦を受けた、総勢１２３名が委嘱され、平成２０年度から２年１期で委嘱している中で過去最大の人数となりました。昨年度の記念事業では、シンガーソングライターの堀内圭三氏と私共がコラボレーションし、歌を制作し披露。今年度はハートメッセンジャーが楽器も演奏し、曲の幅も広がっています。
ハートメッセンジャーは、施設内だけでなく、あらゆるところでその活動の場が年々広がっています。福祉・介護現場で働くハートメッセンジャーはご依頼があれば原則無料で派遣いたします。

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会は宣言します

一．私達は、介護の仕事に「誇り」を持っています。そのことを多くの方々に伝え、介護の仕事の意義や素晴らしさを伝えていきます。
一．私達は、介護を通して、「私の人生は幸せだ」と思っていただける方々を増やしていきます。
一．私達は、「共に泣き、共に悩み、共に笑いあえる」、そのような人間関係を築き、その人らしい生活の実現に努めます。
一．私達は、介護の仕事の尊さ、素晴らしさを多くの方々に理解していただくことで、社会的評価を高めていきます。

FUKUSHIハートメッセンジャー　VOL.01
高齢者福祉施設で働く魅力を紹介する市老協独自のパンフレット「**FUKUSHIハートメッセンジャー**」を作成しました。

オリジナル曲（堀内圭三氏作）
「ハートメッセンジャー」を門川大作市長と大合唱

第４期ハートメッセンジャー委嘱式

第１期　　８５名
第２期　１０１名
第３期　１１１名
第４期　１２３名

市内中学生の「**生き方探求・チャレンジ体験**」事前学習にハートメッセンジャーが訪問
「介護の仕事に興味を持ったのは、チャレンジ体験がきっかけ」という人が少なくなく、介護の魅力を伝える貴重な機会です。

「福祉職場就職フェア」
これから福祉業界に就職を考える皆さんに、先輩としてのメッセージを発信。
現場で働く先輩の率直な声を届けます。

四条河原町での「介護の日」宣伝活動、ティッシュ配り

山科区民生児童委員大会に、３名のハートメッセンジャーが参加。
施設の紹介と共に、介護の仕事の魅力とやりがいについて伝えました。「**地域にこんな施設があると聞いて、安心した**」とのお声を頂きました。

京都保育福祉専門学院の授業
ハートメッセンジャーが事例提供し、学生との事例検討を通して介護現場の実際を知り、利用者理解を深めます。

『ハートメッセンジャー』

作詞：堀内圭三 & 大畠れん
作曲：堀内圭三

私の両手で誰かの心を
支えられるような仕事がしたくて
どんな時でも優しい心で
そっととなりで寄り添えるように

失敗と反省の連続だけど
かけがえのない今日を　共に生きたい

☆ We're ハートメッセンジャー
　熱い想いを
　We're ハートメッセンジャー
　あなたに伝えたい

あなたのまなざし　体のぬくもり
言葉の他にも　すべてを感じたい
あなたの喜び　あなたの悲しみ
共に笑って　共に泣きたい

支えてるつもりが　支えられていた
あなたの笑顔に　支えられていた

◎ We're ハートメッセンジャー
　人生って素晴らしい
　We're ハートメッセンジャー
　誇りをもっていこう

悩みと迷いの連続だけど
それが私を成長させる
仲間と共に！
☆（REPEAT）
◎（REPEAT）

ハートメッセンジャーとは？
平成２０年１１月１１日、「介護の日」の制定に合わせて京都市老人福祉施設協議会が独自に委嘱し、今期で４期目となる「**介護職の広報担当**」です。
介護の素晴らしさを広く市民の皆様に伝えていくために、そして介護の仕事に魅力を感じ、介護の現場で働く人が少しでも増えていくように、様々な場で活動しています。

特別養護老人ホーム上桂

欅

けやき

三頂福祉会特別養護老人ホーム上桂
施設長　吉田　知壽留

＜施設概要＞

施設名	三頂福祉会　特別養護老人ホーム上桂
施設長	吉田　知壽留
管理者	吉田　知壽留
所在地	〒615－8228 京都市西京区上桂西居町33番地
電話	０７５－３８２－２８００
ＦＡＸ	０７５－３８２－２８０８
事業内容	○地域密着型特別養護老福祉施設 29名（3ユニット） ○短期入所生活介護施設 9名（1ユニット）

社会福祉法人三頂福祉会　特別養護老人ホーム上桂は2014年1月11日にオープンした地域密着型の施設です。

当施設は、地域住民の方に古くから親しまれてきた御霊神社の近く、三頂福祉会のロゴマークにもなっている「**欅**」の木の下、以前よりそこにあったかのように佇んでいます。温かみを覚える和モダンなスタイルの外観は、梢を吹く風のように、穏やかで心豊かな時間をもたらしてくれます。そんな施設の中で、私達はご利用者一人一人を尊重し「**今までの生活の延長として**」「**その人らしく**」を大切に、住み慣れた地域でやすらぎを感じられる長期的な介護サービスの提供をいたします。『**施設へ入所したから出来なくなった**』と感じることなく生活を送れるような、可能な限り思いが叶えられるような施設でありたいと、日々、利用者さまと向き合っています。そして福祉施設という枠を越え、高齢者の方の憩いの場、利用者さまが最期まで安心して暮らせる自宅のような施設を目指しております。ご家族様には気兼ねなく訪れる事の出来る場所として、また地域の皆様が憩い、集える、なくてはならない場所をご提供致します。

わたしたちは、おもてなしの心を忘れず、すべての方々との交流を深めていきたいと思っております。これからも末永く宜しくお願い致します。

香東園やましな

『地域の〝お茶の間〟目指します』

地域密着型複合施設　香東園やましな
施設長　児玉　直久

＜施設概要＞

施設名	地域密着型複合施設　香東園やましな
施設長	児玉　直久
管理者	児玉　直久
所在地	〒607－8353 京都市山科区西野野色町１５－８８
電話	０７５－５９５－６５１１
ＦＡＸ	０７５－５９５－１１６６
事業内容	○地域密着型特別養護老人ホーム 29名（3ユニット） ○短期入所生活介護 29名（3ユニット） 小規模多機能型居宅介護 定員25名(通い15名、泊り9名)
併設施設	介護老人保健施設 120名(12ユニット) 通所リハビリテーション(デイケア) 居宅介護支援事業 カフェＴＳＵＢＡＫＩ

平成25年10月に東山中学・高等学校のグラウンドあと地（山科区西野学区）で産声を上げた“香東園やましな”です。

当施設は地域密着型特養のある地域密着型複合棟と老健のある介護老人保健棟の２つの棟からなり、各棟との間の厨房棟にてカフェＴＳＵＢＡＫＩを配置して地域の方の憩いの場、ご利用者の交流の場、そして職員の休憩の場として活用しています。

独居世帯、核家族という言葉がまだなかったころには、家には親、兄弟、親戚、高齢者から子どもまで、みんながお茶の間で過ごしていました。**“香東園やましな”**は、高齢者福祉をとおして、むかし当たり前であったあの風景のように、地域にとっての「お茶の間」となりたいと考えています。

全室個室・ユニット型施設としてご利用者お一人おひとりの意思とプライバシーを尊重しながら**“その人らしさ”**を感じる生活を支援します。また、文字通り地域密着型の施設として地域の方々が気軽に集える場を用意し、住み慣れた地域での生活を維持継続できるように小回りの利く多彩な事業による切れ目のない介護サービスを提供します。

「**ここに“香東園やましな”が在って良かった。**」と言われるように、温故知新を念頭に地域貢献の姿を常に考えてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。